

## 【先憂後楽(せんゆうこうらく)】

「天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」つまり、「心配事は世の中の誰もが気づかない先から心がけてその問題を解決する事に努め、楽しみ事は政治が立派に行われ世の中のすべての人が楽しむようになった後に楽しむ」という為政者としての心がまえを説いた言葉で、范仲淹の有名な「岳陽楼の記」に見える言葉です。

世の政治家たる者はすべてこうあってほしいものですが、今の政治家には、そのかけらほどもありません。それどころか、「天下の楽しみに先立って楽しみ、天下の憂いに後れて憂える」という政治家の方が多いようです。

今は野球場として有名な“後樂園”ですが、ここは昔、水戸藩の江戸屋敷跡で、その庭園の名が後樂園でした。後樂園は寛永年間、水戸藩の始祖頼房が作り、その子光圀が命名したものです。光圀は、為政者としての心がまえを片時も忘れぬよう、庭園に“後楽”の名を付けたのだ、と思います。さすがは水戸黄門ですね。

日本三公園の一つである岡山の“後樂園”は、貞享年間に、岡山藩主池田綱政が同じ精神でこれを作りました。

さて、“先”は足の意味の止の変形した𠂔と、人の変形した儿との会意字で、「人がわれ先にと足を前に踏み出そうとする」ことを表わし

た字です。さきんずる さき。

後は、行(𠂔)の意味の彳と、幼の意味の幺と、足(止)の意味の夂との会意字で、「幼い子の足(歩行)の遅い」ことを表わした字です。“遅れる”ことから“あとになる” “あと”という意味になります。

“幺”は糸の先端を表わしたもので、“わずか”“小さい”という意味の字です。幼は力の小さい子供を表わしたものです。行は、十字路の形を表わしたもので、“道路”の意味の字ですが、“道を行く”という意味で、“いく”とも使われるようになりました。

“憂”は、頭の意味の頁と心と夂とで作られた会意字です。𠂔は、心に頭が重くのしかかっている事を表わしていて、これが“心配する”という意味を表わしています。憂は、心配事があって下向き加減にゆっくり歩くことを表わした字ですが、今は単に“心配する”意味に使われています。

“楽”は、太鼓や鐘などの打楽器の形を表わした字で、“楽器”が本義の字です。今は、楽器で演奏される“音楽”の意味に使われています。また、音楽を聴くと、心が“たのしく”なるので、“たのしい”という意味にも使われます。

“楽”という字は、楽器の形から作られた字ですから“象形字”ですが、“たのしい”という使い方をする時、これを“転注”と言います。車輪が転がってその位置が変わるように、漢字の意味が変わることを表わした言葉です。